

## ヨハネの福音書 第9章 41節

「イエスは彼らに言われた。『もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、〈私たちは目が見える〉と言っています。あなたがたの罪は残るのです。』」

見える、見えると言いながら、どれほどの罪を犯しているだろうか。見ていること、見たことから起こる振る舞い、見ての通りとなってしまう。それっきりで、取返しのつかない様となる。自分の眼で見ると言い張り、自分の眼で確かめたと主張し、自分の眼の確かさに立ち続ける。見た、と言いつける。その人に向かって、もしあなたが盲目であったなら罪はなかった。

もし盲目であったなら罪はなかった。主イエスがおっしゃることが盲目を勧めることでしょうか。それはありません。主イエスは奇蹟により盲目の者を癒してくださいました。それでは、ここでのお話はどういうことでしょうか。

ここで言う盲目は、自分がと主張する、自分の眼がと言いつけるこの姿勢を止めて、御前に謙り、主の眼差しを受けて見るこの目の、洞察、理解を持つ者のことではないでしょうか。生身の自分だけの眼で見るのではなく、贖われたこの目の目で見る者が、ここで言われる盲目な人ではないだろうか。

2023年2月11日